選手や学生だけではなく、地域教員や学生から高齢者までを受けられ







るべく活動を充実していめの指導者 のスォ た健康・ 設などを活用 スポーツや健康づくり の指導者養成など「スポースポーツや健康づくりのたなどを活用しながら、地域

伸や仲間づれまり 運動能力 性化などに寄与します解決や、交流による地 ることで ます 交流による地域の活の低下という問題の - ツを楽しみ、名の。地域住民が白 近年における体力・ 力の維持増進を図 鹿屋体育大学 やニーズに応じ り 域住民が立て 健康寿命の あ を 寿参加 O

いますっ ラブです。 5つのサ 向導は教 ル 」「貯筋運動」 ただ で活動して りけ

MPO 紫人 MIES スポーツ分与

【NIFS スポーツクラブ陸上サークルの活動】

中学生から 70 歳代までの方が一緒に短・長距離走などの練習に励んでいます。幅広い年代で交流 できるため、クラブの雰囲気はとてもよく、鹿児島市内から通う人もいます。また、教え合ったり することで参加者同士の絆が深まっているようです。学生指導スタッフも多くの学びを得ています。





NIFSスポーツクラブ 陸上競技担当

きんたか ひろふみ 金高 宏文 教授

広島県出身。筑波大学大学院を修了後、平成元年に 鹿屋体育大学の助手に就く。平成20年から開始した 陸上サークルを担当し、「かのや健康・スポーツクラ ブ」のジュニア陸上とも連携して活動している。











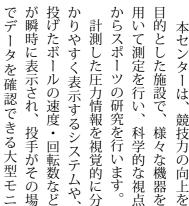


平成27年から使用開始された研究センター。走る際に地面にかかる圧力を計測 する「50 mフォースプレート」や、モーションキャプチャ、ハイスピードカメ ラなど最新鋭の設備が備えられた屋内研究施設で、選手のパフォーマンス向上 や指導者養成を行う。

実効性が認められ、 ちろんのこと、 官・学連携の取り組みにも力を入 ポーツ製品の能力試験など、 が整っています。そのため、 ツ合宿に伴う測定や、 年間利用者数は1万人を超えまし ために来鹿するなど本センター のみならず学外からの測定希望も 今後は研究のさらなる推進はも また、 プロスポー 市が受け入れたスポー

企業のス

に取り組みたいと考えています。に力添えができる施設になるよう -のパフォ・ 今までよりも一 マンス向上



ルの速度・回転数など 競技力の向上を 投手がその場 科学的な視点 様々な機器を います。

スポーツパフォーマンス研究センター長

ターなど、

研究者のみならず選手

にもフィー

ドバックしやすい環境

東克 だ あきら 前田 明 教授

学内

ツ選手も測定の

令和元年度の

0)

宮崎県出身で鹿屋体育大学の第1期生。同大学 院修了後は、秋田大学医学部助手や東京の国立 スポーツ科学センター職員などを経て、平成14 年に同大学助教授となる。



7 KANOYA CITY PUBLIC RELATIONS Vol.378 October 2021 6